

## 「子ども」

——比較文化研究からみた日本の子ども——<sup>1) 2)</sup>

松井 洋\*・中村 真\*\*  
堀内 勝夫\*\*\*・石井 隆之\*\*\*\*

### “Children”

#### Japanese Children, According to the Cross Cultural Study

MATSUI, Hiroshi, NAKAMURA, Shin, HORIUCHI, Katsuo and ISHII, Takayuki

#### 要 旨

本研究の目的は日本の「子ども」の特徴について比較文化の視点から検討することであり、特に非行と非行を抑制する要因について明らかにすることである。そのため非行許容性と恥意識、道徳意識の関係について検討する。この目的のため、日本とトルコの中学・高校生 1488人を対象に調査を行った。

調査結果は、日本の中高生はトルコの中高生と比較して、道徳意識が低く、非行的行為に対して許容的という傾向があった。非行許容性、虞犯許容性、犯罪許容性については、日本の中学女子は男子より許容的であった。道徳意識は、日本よりトルコ、高校生より中学生、男子より女子が高いと言うという傾向があった。

恥意識について、自律的恥意識と他律的恥意識は、概ねトルコが日本より高く、男子より女子、高校生より中学生が高い傾向があった。しかし、他者同調的恥意識は、男子より女子、高校生より中学生が高いという傾向は前二者と同様だが、他の恥意識とは異なり、トルコより日本が高かった。

非行許容性を従属変数とした重回帰分析の結果は、日本の生徒では非行許容性は他律的恥意識によって説明され、また、他律的恥意識が強いほど非行を許容しないと考えられ、そして、道徳意識が強いほど非行を許容しないという関係である。しかし、トルコの中高生の非行許容性は道徳意識によって説明され、恥の意識とは関係が無いということが言える。

これらのことより、非行許容性の背景となる個人の態度には文化差があると考えられる。そ

---

\*教授 社会心理学

\*\*助教授 社会心理学

\*\*\*産業能率大学

\*\*\*\*日本・精神技術研究所

して、トルコの中高生では、恥の意識より、良い悪いという道德意識が非行的行為と関係が深いと言える。他方、日本の中高生では、良い悪いという判断より、他者を意識した「恥」の意識がより重要である。しかし、日本の中高生は、他者同調的恥意識は強いが、非行許容性と関係の深い他律的恥意識はトルコに比べて弱いという問題が明らかとなった。

キーワード：非行許容性、恥意識、道德意識、国際比較、子ども、トルコ

## はじめに

川村学園女子大学において、比較文化研究者の所属、専門分野にとらわれない学際的交流の場をもうけるために、2004年に比較文化研究センターが設立された。04-05年は「子ども」という統一テーマのもとに各研究分野から研究報告を行った。本稿は、比較文化研究センターの研究会で発表した国際比較研究調査の内容を基に、われわれの研究グループが調査した新たなデータを加えてまとめたものである。

## 問 題

著者らは、日本の青少年について、20年近く国際比較調査を続けている。最初は、非行の問題、特に、その原因や背景について調べることが目的だった。ところが、これらの研究から明らかになってきたのは、非行をする「悪い子」ではなく、どこにでもいるような「ふつうの子」の問題であった。日本の「ふつうの子」は、他の国と比べると、物質志向が強く、がまんや努力が嫌いで、さぼりや性にかかわることなど「ちょっと悪いこと」に甘いなど、人生観や価値観に歪みがある。そして、そのような生き方が非行などの問題につながっていく。

以上の問題についてはこれまで繰り返し報告してきた（堀内他2004、松井1991、1997、1998、1999、2000、2001、2002、2003、2004、松井他1995、1998、2004、2005、永房他2004、中村他2004、中里他1992、1993、1996、1997、1999、2003）。本稿は04-05年に実施した日本とトルコの調査研究の成果を基に、日本の「子ども」の特徴について再考してみる。特に、今回の調査結果から、道德意識、非行許容性、恥意識について、トルコの中高生と比較することにより、日本の中高生の態度について検討する。また、非行許容性と恥意識、道德意識の関係を検討することにより、非行を抑制する要因について考察する。

## 方 法

## 1. 調査対象者

調査は、日本の北海道、青森、岩手、茨城、静岡の5道県における8校（中学校5校、高等学校3校）で実施された。トルコの調査地は大都市のイスタンブールとダータネル海峡に面した小都市チャナッカレである。調査対象者は中学校2年生と高校2年生である。サンプル数は表1の通りであるが、ここでは生徒1488人の結果のみを分析する。

表1. 調査対象者

	中学生		高校生		生徒計	父親	母親	親計	合計
	男子	女子	男子	女子					
日本	195	207	487	158	1,047	503	589	1,092	3,186
トルコ	100	80	120	141	441	350	372	722	1,604
合計	295	287	607	299	1,488	853	961	1,814	4,790

## 2. 調査方法

質問紙による調査を行った。調査依頼に応じていただいた各学校へ調査票を送付し、クラス単位で調査票の配布、記入、回収する方法をとった。

## 3. 調査票の構成

調査票は、恥意識に関する質問（4件法、25項目）、愛他性に関する質問（4件法、5項目）、非行許容性に関する質問（4件法、10項目）、価値観に関する質問（4件法、12項目）、父親および母親に対する心理的な距離に関する質問（4件法、各14項目）、道徳意識に関する質問（4件法、10項目）およびフェースシートから構成された。なお調査票を付表として添付した。

## 4. 調査期間

調査期間は、2004年9月～12月である。

## 結 果

日本・トルコ×中学生・高校生×男子・女子の組み合わせで8群をつくり、以下の要因について分析した。

## 1. 道徳意識

道徳意識について「人にウソをつくこと」「人を困らせること」「困っている人を助けないこと」「自分かってにふるまうこと」「公園の花をおること」「親のいうことをきかないこと」「友達との約束を破ること」「学校の先生のいうことをきかないこと」「バスの中で2人分の座席を占領して座ること」の9項目についてどのくらい「悪いと思う」かを4段階で評定させ、その平均を道徳意識総合とした。なお調査票のうち「かんだガムを道ばたにすてる」は異質な項目なので、総合点からは除外した。この9項目は日本の対象者で、クロンバックの $\alpha = .801$ であった。

道徳意識総合の分散分析と多重比較（DUNCAN, 以下同じ）の結果を表2に示す。

表のように、道徳意識は各属性間に有意な差がある。多重比較によると、いろいろな行為について最も「悪い」と答える、つまり、道徳意識が高いのがトルコの中学生女子であり、低いのが日本の高校生男子である。そして、道徳意識が高いのは日本よりトルコ、高校生より中学生、男子より女子という傾向がある。

表2. 道徳意識総合得点（高が道徳意識高）の分散分析と多重比較（Duncan）の結果

属性	度数	$\alpha = .05$ のサブグループ			
		1.000	2.000	3.000	4.000
日本：高校生：男子	487	2.816			
日本：中学生：男子	195		2.957		
日本：中学生：女子	207		2.970		
日本：高校生：女子	158		3.067		
トルコ：高校生：男子	120			3.285	
トルコ：高校生：女子	141			3.312	
トルコ：中学生：男子	100			3.319	
トルコ：中学生：女子	80				3.472
有意確率		1.000	0.069	0.579	1.000

F (7,1480) = 41.499, P = .000

## 2. 非行許容性

非行許容性とは非行的行為を「悪い」と思わず、「たいしたことがない」と考える態度を言う。ここでは、10の行為について「たいしたことはない」から「非常に悪い」までの4件法で回答させた。

非行的行為のうち「ちょっとしたものを万引きする」、「ケンカをして怪我をさせる」、「人の物を盗む」、「覚醒剤などの薬物を使う」は刑法犯なのでその合計は「犯罪許容性」とした。また、「タバコを吸う」、「酒を飲む」、「エッチな雑誌やアダルトビデオを見る」、「夜遅くまで外で遊ぶ」、「学校をサボる」、「異性の友達と二人で泊まる」は望ましくはないが犯罪ではないのでその合計を虞犯許容性とした。この分類は前述の過去の研究でも異なる因子となることがわ

「子ども」

かっている。そして、全10項目の合計を「非行許容性」とした。

まず、全体の「非行許容性」の分散分析と多重比較の結果は表3のとおりである。表のように非行許容性は各属性間に有意な差がある。多重比較によると、最も非行許容性が低い、つまり「悪い」と答えるのがトルコの中学生女子であり、高い、つまり「たいしたことはない」と答えるのが日本の高校生男子である。そして、非行許容性が低い、つまり、非行に対して抑制的なのは日本よりトルコ、高校生より中学生、男子より女子という傾向がある。この傾向は「道德意識」と同様だが、日本の中学生についてのみは、女子のほうが男子より非行に許容的である。

表3. 非行許容性（高が許容的）の分散分析と多重比較（Duncan）の結果

生徒の属性	度数	$\alpha = .05$ のサブグループ					
		1	2	3	4	5	6
トルコ：中学生：女子	80	1.448					
トルコ：中学生：男子	100		1.689				
トルコ：高校生：女子	141		1.766				
トルコ：高校生：男子	120			2.041			
日本：中学生：男子	195			2.093			
日本：中学生：女子	207				2.291		
日本：高校生：女子	158					2.532	
日本：高校生：男子	487						2.728
有意確率		1.000	0.266	0.454	1.000	1.000	1.000

F (7,1480) = 103.655, P = .000

「虞犯許容性」の分散分析と多重比較の結果は表4のとおりである。表のように虞犯許容性は各属性間に有意な差がある。多重比較によると、最も虞犯許容性が低いのがトルコの中学生女子であり、高いのが日本の高校生である。そして、虞犯許容性が低いのは日本よりトルコ、高校生より中学生、男子より女子という傾向がある。この傾向は「道德意識」と同様だが、「非行許容性」と同様に日本の中学生についてのみは、女子のほうが男子より許容的である。

表4. 虞犯許容性（高が許容的）の分散分析と多重比較（Duncan）の結果

生徒の属性	度数	$\alpha = .05$ のサブグループ				
		1	2	3	4	5
トルコ：中学生：女子	80	1.650				
トルコ：中学生：男子	100		1.981			
トルコ：高校生：女子	141		2.120			
日本：中学生：男子	195			2.412		
トルコ：高校生：男子	120			2.493		
日本：中学生：女子	207				2.686	
日本：高校生：女子	158					3.224
日本：高校生：男子	487					3.324
有意確率		1.000	0.105	0.347	1.000	0.242

F (7,1480) = 119.816, P = .000

「犯罪許容性」の分散分析と多重比較の結果は表5のとおりである。表のように犯罪許容性は各属性間に有意な差がある。多重比較によると、最も犯罪許容性が低いのがトルコの中高生、特に女子である。そして、おおむね犯罪許容性が低いのは日本よりトルコ、高校生より中学生、男子より女子という傾向がある。

「非行許容性」, 「虞犯許容性」, 「犯罪許容性」のどの切り口でも許容性は、日本よりトルコ、高校生より中学生、男子より女子が低いという傾向があった。しかし、日本の中学生についてのみは女子のほうが男子より非行に許容的という傾向があった。

表5. 犯罪許容性（高が許容的）の分散分析と多重比較（Duncan）の結果

生徒の属性	度数	$\alpha = .05$ のサブグループ					
		1	2	3	4	5	6
トルコ：中学生：女子	80	1.142					
トルコ：高校生：女子	141	1.232	1.232				
トルコ：中学生：男子	100	1.245	1.245				
トルコ：高校生：男子	120		1.370	1.370			
日本：高校生：女子	158			1.498	1.498		
日本：中学生：男子	195				1.621	1.621	
日本：中学生：女子	207					1.702	1.701
日本：高校生：男子	486						1.826
有意確率		0.160	0.058	0.064	0.076	0.246	0.072

F (7,1479) = 34.829, P = .000

### 3. 恥意識

恥意識は、25の場面について「非常に恥ずかしい」から「まったく恥ずかしくない」までの4件法で測定している。この恥意識についての質問は松井（2005）の質問項目より増加している。それは、前回の因子分析の結果、恥意識は「自律的恥意識」、つまり自分の行為を自ら省みたときに恥ずかしいという気持と、「他律的恥意識」、つまり他者を意識したときに恥ずかしいという気持に分かれた。しかし、その2因子に含まれない項目もあった。それは、他者と違うことを嫌がるような恥の意識であった。そこで、そのような項目を増して、付表のように25項目の恥意識の質問紙を作成した。

この25項目について堀内ら（2005）は3因子構造を見出している。そこで、ここではその3因子に従って分析する。

まず、第一因子は自分自身の規範や要求水準に関しての恥である。「友だちに思わずウソをついてしまったとき」、「自分で決めたことを守れなかったとき」、「友だちとの約束を破ってし

「子ども」

まったとき, 「悪いことをしたのにだまってそれをかくしているとき」, 「親との約束を破ってしかられたとき」, 「自分が正しいと思ったことができなかったとき」, 「試験勉強をしようと決めていたのに, なまけてしまったとき」, 「いじめられている友だちを助けられなかったとき」, 「努力が足りなくて目標が達成できなかったとき」, 「友だちに自分の気持ちをはっきり言えなかったとき」の10項目であり, 他者の眼ではなく, 自己をふりかえったときに生じる恥なので「自律的恥意識」と呼ぶ。

第2因子は, 他者の目, 批判に関する恥意識である。「授業に遅れて先生にしかられたとき」, 「電車やバスの中で携帯電話をかけて大きな声を出したとき」, 「宿題を忘れて先生にしかられたとき」, 「とめてはいけないところに自転車をとめたとき」, 「かんでいたガムを道ばたにすてたとき」, 「静かな病院の中で大声でさわいでしまったとき」, 「家で自分だけ勝手なことをしてしかられたとき」, 「電車やバスで2人分の席をひとりじめして座っているとき」, 「友だちに自分の失敗を笑われたとき」, 「してはいけないことを親に見つかったとき」の10項目であり, 「他律的恥意識」と呼ぶ。

第3因子は, 他者と違うことに関する恥意識である。「みんなが知っている話を自分だけ知らなかったとき」, 「自分だけが流行の物を持っていなかったとき」, 「町で自分のファッションを変な目で見られたとき」, 「みんなができることを自分だけできなかったとき」, 「自分だけその場にふさわしくない服装をしていたとき」の5項目で, 「他者同調的恥意識」と呼ぶ。

「自律的恥意識」の分散分析と多重比較の結果は表6のとおりである。「自律的恥意識」は属性間に有意な差がある。多重比較の結果が示しているのは, 自律的恥意識はトルコが日本より高いということである。そして, 男子より女子, 高校生より中学生が高い傾向がある。

表6. 自律的恥意識 (値が高いと恥意識強)

属性	度数	$\alpha = .05$ のサブグループ		
		1	2	3
日本：高校生：男子	487	2.598		
日本：中学生：女子	207	2.634		
日本：中学生：男子	195	2.679		
日本：高校生：女子	158		2.892	
トルコ：高校生：男子	120		2.926	
トルコ：中学生：男子	100		3.003	
トルコ：高校生：女子	141		3.025	
トルコ：中学生：女子	80			3.185
有意確率		0.280	0.082	1.000

F (7,1480) = 21.996, P = .000

「他律的恥意識」の分散分析と多重比較の結果は表7のとおりである。他律的恥意識は属性

間に有意な差がある。また、多重比較の結果から、日本よりトルコ、男子より女子が高く、日本の女子中学生と高校生の関係を除いて、高校生より中学生が高いという傾向があった。

表7. 他律的恥意識 (値が高いと恥意識強)

属性	度数	$\alpha = .05$ のサブグループ		
		1.000	2.000	3.000
日本：高校生：男子	487	2.593		
日本：中学生：男子	195	2.720		
日本：中学生：女子	207	2.721		
日本：高校生：女子	158		2.889	
トルコ：高校生：男子	120		2.912	
トルコ：中学生：男子	100		2.997	
トルコ：高校生：女子	141			3.200
トルコ：中学生：女子	80			3.313
有意確率		0.063	0.120	0.084

F (7,1480) = 34.805, P = .000

「他者同調的恥意識」の分散分析と多重比較の結果は表8のとおりである。他者同調的恥意識は属性間に有意な差がある。多重比較の結果は他の恥意識とは異なる。すなわち、まず、トルコより日本が高い。そして、男子より女子、高校生より中学生が高い。

表8. 他者同調的恥意識 (値が高いと恥意識強)

属性	度数	$\alpha = .05$ のサブグループ		
		1.000	2.000	3.000
トルコ：高校生：男子	120	2.675		
トルコ：高校生：女子	141		2.857	
日本：高校生：男子	487		2.871	
日本：中学生：男子	195		2.877	
トルコ：中学生：男子	100		2.954	2.954
トルコ：中学生：女子	80		2.959	2.959
日本：高校生：女子	158			3.072
日本：中学生：女子	207			3.088
有意確率		1.000	0.222	0.094

F (7,1480) = 7.39, P = .000

#### 4. 非行許容性と恥意識, 道德意識の関係

非行許容性の3因子をそれぞれ従属変数, 恥意識の3因子と道德意識を独立変数とした重回帰分析を行った。独立変数は強制投入した。また、表8までの分類では細かすぎて結果がわかりにくいので、日本男子、日本女子、トルコ男子、トルコ女子の4群で分析した。重回帰分析の結果を表9に示す。



「子ども」

表9. 重回帰分析の結果

	非行許容性		虞犯許容性		犯罪許容性	
	$\beta$	R2 乗	$\beta$	R2 乗	$\beta$	R2 乗
日本男子		0.237431		0.203752		0.14454
S01 自律的恥意識	-0.003		0.019		-0.055	
S02 他律的恥意識	-0.306		-0.308		-0.177	
S03 他者同調的恥	0.132		0.133		0.073	
道德意識総合得点	-0.286		-0.259		-0.235	
日本女子		0.279495		0.21649		0.24417
S01 自律的恥意識	0.052		0.102		-0.075	
S02 他律的恥意識	-0.356		-0.375		-0.176	
S03 他者同調的恥	0.058		0.109		-0.071	
道德意識総合得点	-0.304		-0.248		-0.303	
トルコ男子		0.237901		0.264979		0.05652
S01 自律的恥意識	0.100		0.019		0.041	
S02 他律的恥意識	-0.120		-0.308		-0.002	
S03 他者同調的恥	-0.036		0.133		0.014	
道德意識総合得点	-0.462		-0.259		-0.248	
トルコ女子		0.253313		0.23415		0.14675
S01 自律的恥意識	-0.141		-0.155		-0.061	
S02 他律的恥意識	-0.006		0.001		-0.024	
S03 他者同調的恥	-0.134		-0.126		-0.100	
道德意識総合得点	-0.360		-0.337		-0.298	

まず、非行許容性を従属変数とした重回帰分析の結果は、日本の男女は他律的恥意識の $\beta$ が大きく、次に道德意識が大きい。つまり、日本の男女では非行許容性は他律的恥意識によって説明され、他律的恥意識が強いほど非行を許容しないと考えられ、次に、道德意識が強いほど非行を許容しないという関係である。

ところが、トルコの男女では、恥意識の $\beta$ はいずれも小さく、道德意識のみが大きい。つまり、トルコの中高生の非行許容性は道德意識によって説明され、恥の意識とは関係が無いということが言える。

同様のことが虞犯許容性についても言える。日本の中高生の虞犯許容性は、第一に他律的恥意識で、次いで、道德意識で説明できる。しかし、トルコの中高生の虞犯許容性は道德意識と関係が深い。

犯罪許容性についてはまた違った傾向がある。日本の中高生の犯罪許容性は第一に道德意識で、次いで、他律的恥意識で説明できる。

トルコは、やはり恥意識ではなく道德意識の $\beta$ が大きい。ただ、トルコの男子のR2乗は小さい。つまり、トルコの男子の犯罪許容性は、恥意識や道德意識では説明できない。

## 考 察

日本とトルコの中・高生 1488 人を対象に調査を行った。

道徳意識は、日本よりトルコ、高校生より中学生、男子より女子が高いと言うという傾向があった

非行許容性全体に対しては日本よりトルコ、高校生より中学生、男子より女子が許容的でないという傾向があった。この傾向は「道徳意識」と同様だったが、日本の中学生についてのみは女子のほうが男子より非行に許容的であった。

虞犯許容性に対しては日本よりトルコ、高校生より中学生、男子より女子が許容的でない、そして、日本の中学生についてのみは女子のほうが男子より虞犯行為に許容的であるという非行許容性全体と同様の傾向があった。

犯罪許容性も日本よりトルコ、高校生より中学生、男子より女子が許容的でないという傾向がある。

以上のように、日本の中高生はトルコの中高生と比較して、道徳意識が低く、非行的行為に対して許容的という傾向があった。これは、これまでのわれわれの研究でも共通している。そして、この傾向はわが国の子ども・青年の諸問題の背景となる困った態度と言える。

さらに、注目すべきなのが、日本の女子中学生の道徳意識の低さと非行許容性の高さである。女子は男子より抑制的であるべきだという立場はとらないが、女子のほうが虞犯行為や非行的行為に「甘い」態度だということは、これまでわれわれが行ってきた世界各国の調査では例が無いことなのである。

恥意識は、堀内ら（2005）の分析による「自律的恥意識」「他律的恥意識」「他者同調的恥意識」は3因子構造に従って分析した。

自律的恥意識と他律的恥意識は、概ね日本よりトルコが高く、男子より女子、高校生より中学生が高い傾向があった。しかし、他者同調的恥意識は、男子より女子、高校生より中学生が高いという傾向は前2者と同様だが、他の恥意識とは異なり、トルコより日本が高かった。

以上の、道徳意識、非行的態度、恥意識の構造を検討し、さらに、非行にかかわる、あるいは背景となる、さらには抑制要因となる態度の構造を明らかにするために、非行許容性の3因子をそれぞれ従属変数、恥意識の3因子と道徳意識を独立変数とした重回帰分析を日本男子、日本女子、トルコ男子、トルコ女子の4群について行った。非行許容性を従属変数とした重回帰分析の結果は、日本の生徒では非行許容性は他律的恥意識によって説明され、他律的恥意識が強いほど非行を許容しないと考えられ、次に、道徳意識が強いほど非行を許容しないという

## 「子ども」

関係である。しかし、トルコの中高生の非行許容性は道德意識によって説明され、恥の意識とは関係が無いということが言える。

同様のことが虞犯許容性についても言え、日本の中高生の虞犯許容性は、第一に他律的恥意識で、次いで、道德意識で説明できるが、トルコの中高生の虞犯許容性は道德意識と関係が深かった。

犯罪許容性についてはまた違った傾向があり、日本の中高生の犯罪許容性は第一に道德意識で、次いで、他律的恥意識で説明できるが、トルコは、やはり恥意識ではなく道德意識が犯罪許容性を説明する。しかし、トルコの男子の犯罪許容性は、恥意識や道德意識では説明できない。

以上のように、非行許容性、つまり、非行的行為を「たいしたことではない」と考えたり、反対にそのような行為を抑制するような態度の背景となる個人の態度には文化差があると考えられる。トルコの中高生では、恥の意識より、良い悪いという道德意識が非行的行為と関係が深いと言える。他方、日本の中高生では、良い悪いという判断より、他者を意識した「恥」の意識がより重要である。

非行に対する態度を考えるとときに「恥」の意識が重要だという結果は、Benedict (1946) の「菊と刀を」思い起こさせる。彼女は欧米の文化が罪の文化であるのに対して、日本の文化は恥の文化であるとした。つまり、日本人の価値判断は他者を意識した恥の意識を根底にして行われるという指摘である。

本研究の結果はこのような考えを支持するものである。たしかに、日本の中高生は道德意識より他者を意識した恥意識に強く影響されて非行的行為に対する態度を持つようである。ということは、日本の非行を抑制する要因として恥の意識が期待できるということである。

他方、日本において非行要請要因として期待される恥の意識だが、ここに問題がある。先に述べたように、日本の中高生は、他者同調的恥意識は強いが、非行許容性と関係の深い他律的恥意識はトルコに比べて弱いのである。日本の中高生は非行に対して許容的なのであるが、この許容的な態度のブレーキとなる恥意識が弱いことが日本の中高生の問題である。ここで改めて「恥」の意識を見直す必要があるだろう。それが、わが国の子どもの問題を解決する一つのカギであると言えるだろう。

文献

- Benedict, R. *The Chrysanthemum and the Sword-Patterns of Japanese Culture*. 1945 Boston. 長谷川松治訳, 1967, 「菊と刀」, 現代教養文庫 社会思想社.
- 堀内勝夫・中里至正・松井 洋・中村 真・永房典之・鈴木公啓, 2005, 「恥意識の構造」, 日本パーソナリティ心理学会第14回大会発表論文集.
- 堀内勝夫・中里至正・松井 洋・中村 真・永房典之, 2004, 「恥意識の行動抑制効果に関する研究(1)一価値観との関係一」, 日本社会心理学会第45回大会発表論文集, 526.
- 松井 洋, 1991, 「青年期における愛他行動の発達とその規定因」, 川村学園女子大学研究紀要, 第2巻, 181-193.
- 松井 洋・中里至正・加藤義明・瀬尾直久・石井隆之, 1995, 「愛他性の構造に関する国際比較研究」日本心理学会第59回大会発表論文集, 173.
- 松井 洋, 1997, 「愛他性に関する国際比較研究一米国, 中国, 韓国, トルコ, 日本の中学生・高校生を対象として一」, 川村学園女子大学研究紀要, 第8巻, 第1号, 147-165.
- 松井 洋, 1998, 「中学・高校生の思いやり意識一日本・中国・韓国・アメリカ・トルコの学生・高校生を対象として一」, 川村学園女子大学研究紀要, 第8巻, 第1号, 147-165.
- 松井 洋・中里至正・石井隆之, 1998, 「愛他性の構造に関する国際比較研究」, 社会心理学研究, 第13巻, 2号, 133-142.
- 松井 洋, 1998, 「中学・高校生の思いやり意識一日本・中国・韓国・アメリカ・トルコの愛他性の国際比較研究一」, *Health Sciences*, vol.14, no.2, 45-55, 日本健康科学学会.
- 松井 洋, 1998, 「愛他性に関する国際比較研究一日本, 中国, 韓国, アメリカ, トルコ, キプロス, ポーランドの中学生・高校生を対象として一」, 川村学園女子大学研究紀要, 第9巻, 第1号, 175-186.
- 松井 洋, 1999, 「日本の中学生・高校生の価値観に関する研究一日本, アメリカ, 中国, 韓国, トルコ, キプロス, ポーランドとの国際比較研究一」, 川村学園女子大学研究紀要, 第10巻, 第1号, 131-153.
- 松井 洋, 2000, 「日本の若者のどこがへんなのか一中学生・高校生の国際比較から一」, 川村学園女子大学研究紀要, 第11巻, 第1号, 101-114.
- 松井 洋・中里至正・石井隆之, 2000, 「中学生の親子の心理的距離」, 日本心理学会第64回大会論文集, 190.
- 松井 洋, 2001, 「日本の中学生の親子関係」, 川村学園女子大学研究紀要, 第12巻, 第1号, 101-114.
- 松井 洋, 2002, 「日本の中学生の親子関係と非行的態度」, 川村学園女子大学研究紀要, 第13巻, 第1号, 105-119.
- 松井 洋, 2003, 「親子関係と子どもの道徳性一日本, アメリカ, トルコの中高生の比較一」, 川村学園女子大学研究紀要, 第14巻, 第1号, 85-99.
- 松井 洋, 2004, 「社会的迷惑行為に関する研究」, 川村学園女子大学研究紀要, 第15巻, 第1号, 55-68.
- 松井 洋・中里至正・中村 真・堀内勝夫・永房典之, 2004, 「恥意識の行動抑制効果に関する研究(4)一社会的迷惑行為に対する恥意識と罪悪感一」, 日本社会心理学会第45回大会発表論文集, 522.
- 松井 洋, 2004, 「少子化とバーチャルリアリティの時代の子どもの社会性」, 児童心理, 金子書房.
- 松井 洋・中村 真・堀内勝夫・石井隆之, 2005, 「非行的態度の抑制要因に関する研究」, 川村学園女子大学研究紀要, 第16巻, 第1号, 27-44.

## 「子ども」

松井 洋・中里至正・中村 真・堀内勝夫・永房典之・鈴木公啓, 2005, 「恥意識と道德意識の関係」, 日本パーソナリティ心理学会第14回大会発表論文集.

永房典之・中里至正・松井 洋・中村 真・堀内勝夫, 2004, 「恥意識の行動抑制効果に関する研究 (2) —非行的態度との関係—」, 日本社会心理学会第45回大会発表論文集, 524.

中村 真・中里至正・松井 洋・堀内勝夫・永房典之, 2004, 「恥意識の行動抑制効果に関する研究 (3) —親に対する心理的距離が恥意識の形成に及ぼす影響—」, 日本社会心理学会第45回大会発表論文集, 520.

中里至正・加藤義明・杉山憲司・松井 洋・瀬尾直久, 1992, 「非行抑止要因の文化差に関する研究・日本・韓国・米国・中国の高校生を対象として」, (財)日工組調査研究財団.

Nakasato, Y. & Matstui, H., 1993 Altruistic Attitudes of Japanese Youths. *International Journal of Psychology*, vol.27, pp562.

Nakasato, Y. & Matstui, H., 1996 A Structure of Altruistic Attitudes —A Comparison of American, Chinese, Korean, Turkish and Japanese Youths—. *International Journal of Psychology*, vol.28, pp48.

中里至正・松井 洋 (編著), 1997 『異質な日本の若者たち』, プレーン出版.

中里至正・松井 洋, 1999, 『日本の若者の弱点』, 毎日新聞社.

中里至正・松井 洋, 2003, 『日本の親の弱点』, 毎日新聞社.

- 1) 本研究の実施には川村学園女子大学平成17年度教育研究奨励費の研究助成を受けた(代表 松井洋)。
- 2) 本論文は、本論文の著者の他に、東洋大学中里至正、永房典之、鈴木公啓との共同研究の成果である。

<付表 生徒用調査票>

### 生徒のみなさんへアンケート調査のお願い

私たちは、長年にわたって日本と外国の青少年の考えや行動についての比較研究を続けております。今回の調査では、皆さんの考えや日常生活と関係することについていろいろと質問しております。調査結果は、研究に有効に役立てたいと思っておりますので、どうかこの調査にご協力くださいますようお願いいたします。

なお、この調査の結果は統計的に処理されますので、皆さんのお名前が出るなどの迷惑をおかけすることは全くありません。あなたの思ったままを答えてください。

また、質問の中に答えたくない質問がある場合は、その質問には答えずに次の質問に進んでください。

東洋大学 社会心理学研究室	中里至正
川村学園女子大学 心理学研究室	松井 洋
産業能率大学総合研究所	堀内勝夫
川村学園女子大学 心理学研究室	中村 真
東京文化短期大学	永房典之

「子ども」

問1 あなたと同年代の人が以下のようなことをしたとしたら、あなたはどのように思いますか。  
次の1～10の行為について、1～4のどれか1つに○をつけてください。

- |                      |           |       |          |          |
|----------------------|-----------|-------|----------|----------|
|                      | たいしたことはない | 悪いことだ | かなり悪いことだ | 非常に悪いことだ |
| 1. タバコを吸う            | 1         | 2     | 3        | 4        |
| 2. 酒を飲む              | 1         | 2     | 3        | 4        |
| 3. エッチな雑誌やアダルトビデオを見る | 1         | 2     | 3        | 4        |
| 4. 夜遅くまで外で遊ぶ         | 1         | 2     | 3        | 4        |
| 5. ちょっとしたものを万引きする    | 1         | 2     | 3        | 4        |
| 6. ケンカをして怪我をさせる      | 1         | 2     | 3        | 4        |
| 7. 人の物を盗む            | 1         | 2     | 3        | 4        |
| 8. 覚醒剤などの薬物を使う       | 1         | 2     | 3        | 4        |
| 9. 学校をサボる            | 1         | 2     | 3        | 4        |
| 10. 異性の友達と二人で泊まる     | 1         | 2     | 3        | 4        |

問2 次の1～10の行為について、あなたはそれらをどの程度悪いことだと思いますか。  
それぞれについて1～4のどれか1つに○をつけてください。

- |                         |                 |             |                   |                    |
|-------------------------|-----------------|-------------|-------------------|--------------------|
|                         | 非常に悪いこと<br>と思うと | 悪いこと<br>と思う | あまり悪いこと<br>とは思わない | まったく悪いこと<br>とは思わない |
| 1. 人にウソをつくこと            | 1               | 2           | 3                 | 4                  |
| 2. 人を困らせること             | 1               | 2           | 3                 | 4                  |
| 3. 困っている人を助けないこと        | 1               | 2           | 3                 | 4                  |
| 4. 自分かってにふるまうこと         | 1               | 2           | 3                 | 4                  |
| 5. 公園の花をおること            | 1               | 2           | 3                 | 4                  |
| 6. 親のいうことをきかないこと        | 1               | 2           | 3                 | 4                  |
| 7. 友達との約束を破ること          | 1               | 2           | 3                 | 4                  |
| 8. 学校の先生のいうことをきかないこと    | 1               | 2           | 3                 | 4                  |
| 9. バスの中で2人分の座席を占領して座ること | 1               | 2           | 3                 | 4                  |
| 10. かんだガムを道ばたに捨てること     | 1               | 2           | 3                 | 4                  |

問3 次の1)から5)の囲まれている文を読んで、後にある質問について、それぞれどれか1つに○をつけて答えてください。

1) 太郎が学校に遅れそうになって急いで道を歩いていた時、突然、前を歩いていた人が倒れました。病気なのかも知れません。こんな時、太郎はどうすると思いますか。

(1-1) 倒れた人が知り合いの場合はどうしますか。

- |   |   |   |
|---|---|---|
| 1 自分でなんとか助けてあげる<br>2 だれかを呼んであげる<br>3 たぶん、何もしないだろう<br>4 なんともいえない | → | (1-2) なぜですか (1, 2に○をつけた人のみ)<br>1 困っている人を助けるのは義務だから<br>2 人を助けるのはよいことだから<br>3 倒れた人がかわいそうだから<br>4 その人が苦しんでいると思うから<br>5 その他 ( ) |
|---|---|---|

(2-1) 倒れた人が見知らぬ人の場合はどうしますか。

- |   |   |   |
|---|---|---|
| 1 自分でなんとか助けてあげる<br>2 だれかを呼んであげる<br>3 たぶん、何もしないだろう<br>4 なんともいえない | → | (2-2) なぜですか (1, 2に○をつけた人のみ)<br>1 困っている人を助けるのは義務だから<br>2 人を助けるのはよいことだから<br>3 倒れた人がかわいそうだから<br>4 その人が苦しんでいると思うから<br>5 その他 ( ) |
|---|---|---|

2) 花子が疲れて学校から帰るバスはかなり混んでいましたが、やっと座ることができました。やれやれと思ってふと前をみると、かなりの年寄りが座れないで立っています。こんな時、花子はどうすると思いますか。

(1-1) その老人が知り合いの場合はどうしますか。

- |  |   |   |
|--|---|---|
| 1 すぐに席を譲ってあげる<br>2 席をつめて座らせてあげるようにする<br>3 たぶん、席を譲ってあげないだろう<br>4 なんともいえない | → | (1-2) なぜですか (1, 2に○をつけた人のみ)<br>1 老人は助けなくてはいけいから<br>2 老人を助けるのはよいことだから<br>3 その老人がかわいそうだから<br>4 その老人も疲れていると思うから<br>5 その他 ( ) |
|--|---|---|

(2-1) その老人が見知らぬ人の場合はどうしますか。

- |  |   |   |
|--|---|---|
| 1 すぐに席を譲ってあげる<br>2 席をつめて座らせてあげるようにする<br>3 たぶん、席を譲ってあげないだろう<br>4 なんともいえない | → | (2-2) なぜですか (1, 2に○をつけた人のみ)<br>1 老人は助けなくてはいけいから<br>2 老人を助けるのはよいことだから<br>3 その老人がかわいそうだから<br>4 その老人も疲れていると思うから<br>5 その他 ( ) |
|--|---|---|

次のページの3)へ

次のページの3)へ



3) 太郎が山に登っている時、途中で出会った人から、水を飲ませてほしいとたのまれました。太郎の水筒には水がほとんど残っていません。頂上まではまだかなりあり、そこでも水の補給はできません。こんな時、太郎はどうすると思いますか。

(1-1) その人が知り合いの場合はどうしますか。

- |                    |   |                              |
|--------------------|---|------------------------------|
| 1 水を飲ませてあげる        | → | (1-2) なぜですか (1, 2 に○をつけた人のみ) |
| 2 少しだけ水をわけてあげる     | → | 1 困っている人を助ける義務があるから          |
| 3 たぶん、水をわけてあげないだろう | → | 2 困っている人を助けるのはよいことだから        |
| 4 なんともいえない         | → | 3 その人がかわいそうだから               |
|                    |   | 4 のどのかわきはつらいと思うから            |
|                    |   | 5 その他 ( )                    |

(2-1) その人が見知らぬ人の場合はどうしますか。

- |                    |   |                              |
|--------------------|---|------------------------------|
| 1 水を飲ませてあげる        | → | (2-2) なぜですか (1, 2 に○をつけた人のみ) |
| 2 少しだけ水をわけてあげる     | → | 1 困っている人を助ける義務があるから          |
| 3 たぶん、水をわけてあげないだろう | → | 2 困っている人を助けるのはよいことだから        |
| 4 なんともいえない         | → | 3 その人がかわいそうだから               |
|                    |   | 4 のどのかわきはつらいと思うから            |
|                    |   | 5 その他 ( )                    |

4) 花子の友達の一人のお父さんが、交通事故にあい、毎日の生活にも困るようになってしまいました。そこで友達がお金を集めてその友達を助けてあげることになりました。花子はあまりお金をあげると、前から欲しいと思っていたものが買えなくなります。こんな時、花子はどうすると思いますか。

(1-1) 花子はどうすると思いますか。

- |                  |   |                              |
|------------------|---|------------------------------|
| 1 出来るだけ多くお金をあげる  | → | (1-2) なぜですか (1, 2 に○をつけた人のみ) |
| 2 ほんの小銭程度のお金をあげる | → | 1 困っている人を助ける義務があるから          |
| 3 たぶん、お金はあげないだろう | → | 2 困っている人を助けるのはよいことだから        |
| 4 なんともいえない       | → | 3 困っている人がかわいそうだから            |
|                  |   | 4 困っている人が喜ぶと思うから             |
|                  |   | 5 その他 ( )                    |

5) 太郎は久しぶりの休日を家でゆっくりしようと思っていました。ところが、ボランティア活動として、小学校の子供たちにプールで水泳を教えてくれとたのまれました。こんな時、太郎はどうすると思いますか。

(1-1) 太郎はどうすると思いますか。

- |               |   |                              |
|---------------|---|------------------------------|
| 1 水泳を教えに行く    | → | (1-2) なぜですか (1, 2 に○をつけた人のみ) |
| 2 午前中だけ教えてあげる | → | 1 ボランティア活動をすることは義務だから        |
| 3 たぶん、断るだろう   | → | 2 ボランティア活動をすることはよいことだから      |
| 4 なんともいえない    | → | 3 行かないと子供達がかわいそうだから          |
|               |   | 4 行かないと子供達ががっかりするだろうから       |
|               |   | 5 その他 ( )                    |

次のページの間4へ

次のページの間4へ

問4 次の1～12のことからは、あなたの考えにどの程度あてはまりますか。  
それぞれについて1～4のどれか1つに○をつけてください。

あてはまらない  
あてはまる  
あまりあてはまらない  
少しあてはまる  
あてはまる

1. 人になんと思われようと自分のなっとくできる人生が大切だ …1--2--3--4
2. 皆が幸福にならなければ個人の幸福はない …1--2--3--4
3. 人生は運に左右されることが多い …1--2--3--4
4. 人生はお金だけでは幸福になれない …1--2--3--4
5. 今が楽しければよい …1--2--3--4
6. 人生にはお金がなにより大切だ …1--2--3--4
7. 今よりも将来のために努力する …1--2--3--4
8. 人生は自分のことだけでなく人のことを考えることが大切だ …1--2--3--4
9. 何よりも自分の生活を充実させることが大切だ …1--2--3--4
10. 成功はその人の努力しただけ …1--2--3--4
11. 自分の将来は明るいと思う …1--2--3--4
12. 進学や就職のことが不安だ …1--2--3--4

問5 あなたのお父さんについてお答えください。以下の14の質問について、それぞれ1～4のどれか1つに○をつけてください。事情があつてお父さんと一緒に住んでいない場合やお父さんがいない場合は、そのまま次の質問に進んでください。

そうではない  
そうである  
ややそうである  
あまりそうではない  
そうである

1. 父は私のすることになにかと口出しをする …1--2--3--4
2. 父はなにかと私に相談する …1--2--3--4
3. 父は私のいうことなら何でもきいてくれる …1--2--3--4
4. 父は私にあまりかまわない …1--2--3--4
5. 父とはうまくいっている …1--2--3--4
6. 私は父が好きだ …1--2--3--4
7. 父を尊敬している …1--2--3--4
8. 父は私に期待している …1--2--3--4
9. 父のようになりたい …1--2--3--4
10. 私は父に愛されていると思う …1--2--3--4
11. 父から人に親切にすることの大切さを教わった …1--2--3--4
12. 父から「がまん」することの大切さを教わった …1--2--3--4
13. 父は自分にとってこわい存在だ …1--2--3--4
14. 父は頼りがいがある …1--2--3--4

「子ども」

問6 あなたのお母さんについてお答えください。以下の14の質問について、それぞれ1～4のどれか1つに○をつけてください。事情があってお母さんと一緒に住んでいない場合やお母さんがいない場合は、そのまま次の質問に進んでください。

- |  |       |        |        |
|--|-------|--------|--------|
|  | あまり   | そうではない | そうではない |
|  | やや    | そうではない |        |
|  | そうである | そうである  |        |
|  | そうである |        |        |
1. 母は私のすることになにかと口出しをする ..... 1--2--3--4
  2. 母はなにかと私に相談する ..... 1--2--3--4
  3. 母は私のいうことなら何でもきいてくれる ..... 1--2--3--4
  4. 母は私にあまりかまわない ..... 1--2--3--4
  5. 母とはうまくいっている ..... 1--2--3--4
  6. 私は母が好きだ ..... 1--2--3--4
  7. 母を尊敬している ..... 1--2--3--4
  8. 母は私に期待している ..... 1--2--3--4
  9. 母のようになりたい ..... 1--2--3--4
  10. 私は母に愛されていると思う ..... 1--2--3--4
  11. 母から人に親切にすることの大切さを教わった ..... 1--2--3--4
  12. 母から「がまん」することの大切さを教わった ..... 1--2--3--4
  13. 母は自分にとってこわい存在だ ..... 1--2--3--4
  14. 母は頼りがいがある ..... 1--2--3--4

問7 以下の25の場面(次ページに続いている)のそれぞれについて、あなたがどのぐらい恥ずかしいと思うかどうか1～4のうちのどれか1つを選んで○をつけてください。

- |  |     |       |         |         |
|--|-----|-------|---------|---------|
|  | 非常に | 恥ずかしい | 恥ずかしくない | まったく    |
|  | 非常に | 恥ずかしい | 恥ずかしくない | 恥ずかしくない |
|  | 非常に | 恥ずかしい | 恥ずかしくない | 恥ずかしくない |
|  | 非常に | 恥ずかしい | 恥ずかしくない | 恥ずかしくない |
1. 宿題を忘れて先生にしかられたとき ..... 1--2--3--4
  2. 友だちに自分の失敗を笑われたとき ..... 1--2--3--4
  3. 努力が足りなくて目標が達成できなかったとき ..... 1--2--3--4
  4. とめてはいけないところに自転車をとめたとき ..... 1--2--3--4
  5. 自分だけその場にふさわしくない服装をしていたとき ..... 1--2--3--4
  6. してはいけないことを親に見つかったとき ..... 1--2--3--4
  7. 友だちとの約束を破ってしまったとき ..... 1--2--3--4
  8. 自分で決めたことを守れなかったとき ..... 1--2--3--4
  9. 電車やバスで2人分の席をひとりじめして座っているとき ..... 1--2--3--4
  10. 自分だけが流行の物を持っていなかったとき ..... 1--2--3--4
  11. 親との約束を破ってしかられたとき ..... 1--2--3--4
  12. 友だちに思わずウソをついてしまったとき ..... 1--2--3--4

まったく恥ずかしくない  
 恥ずかしくない  
 恥ずかしい  
 非常に恥ずかしい

13. 悪いことをしたのにだまってそれをかくしているとき ..... 1--2--3--4  
 14. 静かな病院の中で大声でさわいでしまったとき ..... 1--2--3--4  
 15. みんなが知っている話を自分だけ知らなかったとき ..... 1--2--3--4  
 16. 授業に遅れて先生にしかられたとき ..... 1--2--3--4  
 17. 友だちに自分の気持ちをはっきり言えなかったとき ..... 1--2--3--4  
 18. 自分が正しいと思ったことができなかったとき ..... 1--2--3--4  
 19. 電車やバスの中で携帯電話をかけて大きな声を出したとき ..... 1--2--3--4  
 20. 町で自分のファッションを変な目で見られたとき ..... 1--2--3--4  
 21. 家で自分だけ勝手なことをしてしかられたとき ..... 1--2--3--4  
 22. いじめられている友だちを助けられなかったとき ..... 1--2--3--4  
 23. 試験勉強をしようと思っていたのに、なまけてしまったとき ..... 1--2--3--4  
 24. かんでいたガムを道ばたにすてたとき ..... 1--2--3--4  
 25. みんなができることを自分だけできなかったとき ..... 1--2--3--4

問8 最後にあなた自身についてうかがいます。あてはまるところに○をつけてください。

1) 性別：1. 男 2. 女

2) 年齢：a. 12歳 b. 13歳 c. 14歳 d. 15歳 e. 16歳 f. 17歳 g. 18歳以上

3) 学年：a. 中1 b. 中2 c. 中3 d. 高1 e. 高2 f. 高3

・・・ありがとうございました・・・